

まちづくり ニュース

ホームページ

<https://tokiwadai.net/>

248号

2022年6月25日

常盤台の景観を守る会
常盤台まちづくり委員会

事務局 島田晴子 tel・fax 3960 - 3869

— 都心低空飛行問題について —

○ 参議院選挙7月10日

—羽田問題は大事な論議のひとつ—

参議院選挙が告示されました。参議院議員の半数が国民の審査のふるいにかかけられます。

経済問題が一番大きな問題のようですが、国民の命より目先の利益の方が大事かどうかという羽田問題は私たちの将来を決める大きな試金石だと思います。

○ 氷塊落下、渋谷区・新宿区は 全会一致で国による調査を要望

渋谷区のテニスコートに落ちた氷塊について、国交省は飛行機由来ではないとして調査をこぼしていますが、15日渋谷区議会が地域住民の不安を解消するよう全会一致で可決、続いて20日、新宿区議会も新ルートの固定化を回避するよう意見書を全会一致で出しました。

○ 文化財の登録

板橋区にも国にも文化財については幾つか種類があります。国宝や重要文化財のようなものではなくても、地域や歴史的に価値のある物は文化的財産として保全し、後世に残していくべきではないでしょうか。

登録有形文化財の制度は築50年以上で価値を認められたものに適用されます。国と区のどちらも昔ほど拘束力は無く、住みながら必要な改築もでき、喫茶店などを営業することさえ可能なのです。もし、登録してみたい、制度を知りたいと言う方がいらしたらご連絡ください。「登録有形文化財建造物制度のご案内」(文化庁発行のパンフレット)を差し上げます。

○ 南宇都宮駅舎の今

五月晴れの日、南宇都宮駅を訪ねました。足利フラワーパークの大藤を見たついでに寄ってみました。

常盤台駅舎の2年前の同じデザインの大谷石づくりの駅舎は、瓦の色も変わり、宇都宮景観賞を受けたせいもあってか、きれいに手入れされていました。

また、大谷石のこと、ときわ台駅との関係などについてかなり詳しい説明や写真が駅構内に展示されていました。

瓦の色は、ときわだい駅の場合、塗料の分析や古いカラー写真からミントグリーンに復原されたようですが、南宇都宮も同じ色の瓦になっていました。常盤台の青系、南宇都宮の茶系と対照的に選ばれた色かと思っていたのですが、本当に初めは同じ色だったのでしょうか。

○ バザーではせずマーマレード販売

7月10日(日) 10時~16時
いつもの小学校前のガレージで

いつも選挙の時は景観を守る会のバザーがあり、去年の選挙日には朝から開店を待っていた人達もいました。“選挙日にはバザー”ということがやっと定着したのですが、数年前から会員の負担が重く感じられるようになったので、今回は見送ることにしました。

公園のはなづくりの会のマーマレードだけ売りたいと思っています。

また、出品したいと思っている方からは、バザーはするのですかというお問い合わせが幾つもありました。様子を見て来年は再開できるかもしれません。

選挙のついでにどうぞお立ち寄りください。

軍国主義の常盤台

この常盤台が分譲販売されたのは昭和十一年（一九三六年）でした。

初めは医者と軍人の街と言われたそうです。当時羽振りの良かった軍関係の人達が多く分譲地を買って住んだようです。

昭和十年代、どんどん軍国主義に染まっていった日本、当時の常盤台とて例外ではありませんでした。

戦後、民主的な活動を見せた学生会も、戦前・戦中は軍国主義に色濃く染まった組織のようでした。学徒動員令が出てからは、光文会館で壮行会が行われ、何人も人が出征していききました。

相互監視としての隣組は、一見お隣同士の助け合い組織として存在していました。冠婚葬祭は葬祭場の無かった頃なので、相互扶助的に各家で行われていました。ご近所からお手伝いが出て、当事者の家はすっかりお任せで助かったかも知れません。

中でも国防婦人会という組織は、常盤台でも盛んだったと思われまます。主立った人達はもちろん今は誰も生きていません。一度お嫁さんに当たる人達が集まって親睦を深めたことがあったようですが、お姑さん達ににらまれたのか一回だけで終わってしまったそうです。国防婦人会の主役だったお婆あさん達の顔を思い出すと、厳しく怖い顔しか浮んできません。お嫁さん達にとっても怖い存在だったのでしょうか。

そんな時代に後戻りしませんように！

「常盤台ガイドライン」無視？

この常盤台の環境を悪化させないように、十一年も前に住民のアンケートを基に作られたのが「ときわ台景観ガイドライン」です。NPO法人「ときわ台しゃれ街協議会」が事業者や地主と協議をしています。

板橋区でもこの運動を応援する意味で、必ず協議をするよう指導しているのです。

ところがこのガイドラインは地区計画に比べて法的拘束力は無いので、地域のことより目の利益を至上とする人達は平気で無視しようとするのです。タカラレーベンやオープンハウスは、どんなにテレビで宣伝していても、常盤台住民には常にマイナスのイメージが染みついていきます。

今回、三階を目途にという区域に強引に四階を建てたいと言う計画が出ました。しゃれ街協議会は二度協議しましたが合意に至りませんでした。その内に隣家の住人から、折角常盤台の土地を購入したのに、隣に四階が建ってしまうのは納得できない、協議会は何をしているのか、という抗議が届いたそうです。

もっともなことだと思えます。今一度、しゃれ街協議会は協議の場を持って、施主や設計者に住民の声を尊重するよう説得してほしいと思います。

常盤台がなぜ一度は住みたいところと、大げさに言えば板橋区民の憧れの住宅地なのか、よく考えれば分ると思えます。その良さをつぶして欲を追求していけば、元も子も無くしてしまうのです。

常盤台公園のはなづくり

梅雨入り直前の六月三日、午前中に花の苗が届きました。午後は雨という絶好のタイミングです。植え付けた後の水やりが天の助けというわけです。ところが午後いっぱいカンカン照りとなり、おろおろしてしまいました。夕方から台風並みの雨風がやってきて一安心。その後も適当な時期に雨が降り、ポーチュラカの芽挿しも順調に根付いた模様です。小さいのに花を付けるものもあります。

Kさんがヒマワリの種をまき、芽吹いたので間隔をとって植え直しました。発芽率が良かったので、今年は背の高いヒマワリが楽しめそうです。

時々芝生の雑草取りをしたりしていますが、芝自体も伸びてきたので、大々的に刈り込まねばならないかもしれません。相変わらずカタバミ系の雑草が我が世の春を謳歌しているので、ネジバナを避けながら抜いたりはがしたりの時々です。

Sさんが桜の根元にかがみ込んで何かしています。声を掛けると、桜の根から伸び出す余分な枝を切り取っているのです。毎月曜日に行われている老人会の掃き掃除にも邪魔になるからだそうです。

